令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大宮北中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	①基礎的・基本的な知識・技能の習得（知識・技能） ②生徒が自分のこととして捉えて思考したり、相手に分かりやすく表現したりする力の向上（思考・判断・表現）
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	①「スタディサプリ」等を活用する。朝に学習時間をとり、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、生徒自身の課題となる部分に気づかせ、補充学習への取り組みを促す。【通年・週に2回実施】 ②生徒が振り返りを記入したり、自身の考えたことやその過程を話したり、文章にしたりする学習活動を取り入れていく。また、表現活動や共有の場面でICTを活用し、「学習者が主体的に学ぶ態度」を育成することで、相手に分かりやすく伝えることを意識した表現力の伸長をはかる。【通年・単元の終わりごとや日々の授業】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語の「助動詞の働き」や「ら抜き言葉」を問う問題の正答率が高く、基礎的な文法知識の定着がみられた。数学の記述式の問題の平均正答率が高く、また、特に「数と式」「図形」の領域がよくできている。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることや、「書くこと」の領域において、自分の考えを推敲し表現することに課題が残る結果であった。 また、事柄が成り立つ理由を説明するときに、どのような方針で進めていくかを考える力に課題がみられた。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	週2回のスタディサプリは概ね実施することができている。生徒が自身で課題を選択し、個別最適化された活動に取り組むことができている。相互授業観察では、授業内で生徒が振り返りを記入したり、自身の考えたことやその過程を話したり、文章にしたりする学習活動を行う場面があった。また、ICTを活用した表現・共有の活動では、相手へ伝える表現力の伸長を図る様子がみられた。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	ICTの活用場面で、タブレット端末がない生徒がいないよう、声かけ等を行う。また、表現活動の場面では、より多くの生徒がコミュニケーション活動へ意欲的に参加できるよう、場面に応じてグループを構成する生徒やその人数を工夫する。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）